

## 14) 靈的エクササイズ 8. 2020年4月22日

朗読 使徒言行録5：17-26

福音 ヨハネ3：16-21

父と子と聖霊の御名によって、アーメン。イエスとマリアは賛美されますように。

兄弟姉妹の皆さん、「黙想」するときは、聖書（旧約、新約）を何度も読み、その箇所の風景やそこにいる人々、特にその箇所に登場する人物を想像してみてください。そして、自分はどこにいるかを考えてみるのです。

今日の朗読箇所は使徒言行録の5章です。場面は、エルサレムの牢獄。

使徒たちは「イエスの名によって話してはならない」という警告に従わず、語ることを止めませんでした。

そこで、「大祭司とその仲間のサドカイ派の人々は皆立ち上がり、妬みにもえて使徒たちを捕らえて公の牢に入れた」のです。

こうして使徒たちは牢屋に入れられました。そこは厳重に見張られ、入っていて楽しい所ではないでしょう。使徒たちは寝ていました。

すると、「夜中に主の天使が牢の戸を開け、彼らを外に連れ出し、『行って神殿の境内に立ち、この命の言葉を残らず民衆に告げなさい』と言った」のです。

「行って神殿の境内」の部分が、「あなた方の場所に行って」という訳もあります。私は、これはとても興味深いと思ったのです。

皆さんにはそれぞれいるべき場所があり、すべきことがあります。

皆さん、あなた方のすべきこととは、「みことばを宣べ伝える」ことです。

パウロは数多くの書簡を残していますが、牢獄の中から書いたものもあります。パウロの中でみことばイエスは、生き生きとしていて、彼はどんな状況下でも黙っていることができませんでした。どこにいようと、証しをすることを止めることができませんでした。それどころか、彼の望みは、ローマの総督にキリストを告げることでした。

兄弟姉妹の皆さん、私たちの場合はどうでしょうか？

私は今、涼しい部屋の中にいます。ガラス戸が外の現実と私を遮断しています。ここはとても居心地が良いですし、外も気持ちがいいでしょう。でも、私はこうして座っていては外に出られません。そこで、考えてみます。「どこが私の場所か？ どうやって外へ出られるか？」

私がよく散歩をする道の途中に、小さなひび割れができました。しばらくすると、アスファルトに入ったひびの下から、小さな芽が出て少しずつ育っていき、その部分のアスファルトを緑で覆ってしまったのです。

自然は、強いのです。命は、私たちの「アスファルト」よりも強いのです。私たちの心、魂を「悲しみ、恐れ、抑圧、などなど」の「アスファルト」で覆わないでください。

アスファルトにできたひび割れを「希望」と呼びましょう。

私たちはよく、「はい、でも…」 「もちろん、でも…」 「それは素晴らしい。でも私は…」  
と言わないでしょうか？ 私もそうです。

でも皆さん、命は死よりも強いのです。命はイエスです。パウロは、「私にとって生きることはキリストであり、死ぬことは利益なのです」（フィリピ1：22）と言っています。もちろんパウロは死を望んでいるのではなく、「死ぬ時が来たなら、それは命であるキリストが新しい生命をくださるときだ」と言っているのです。

美しい自然は創造のみ業を語ります。自然がこれほど美しいなら、超自然はどれほど美しいでしょうか？ 皆さん一人一人に神が与えられようとしている、十字架上で死んだイエスが復活した超自然の恵みは。

イエスは本当に復活されました。御父は新たにイエスをお創りになったのです。

天の御父よ、あなたが私たち一人一人の中に置いてくださったこの希望を育ててください。あなたがお決めになった「私のいるべき場所」にすることができますように。私たちの中におられる御父よ、希望、喜び、安らぎ、確信の恵みをお与えください。その意向で皆さんを祝福します。父と子と聖霊の御名によって、アーメン。

私たちの主において、喜び、愛、平安に満ちた1日をお過ごしください。